

## 紅葉に染まる尾瀬を歩いて

(勝沼)

LMCの今回の例会は、尾瀬ヶ原を歩く旅でした。

鳩待峠から山の鼻に入り、尾瀬ヶ原、尾瀬沼、三平峠から大清水へ下る、高い山には登らない楽な行程にしました。

尾瀬ヶ原の草紅葉は真っ盛り、ナナカマドやツタウルシは赤く色付いていましたが、ダケカンバやブナなどの黄葉は始まったばかりでした。



1泊目は山ノ鼻の尾瀬ロッジ、2泊目は尾瀬沼畔の長蔵小屋に泊まりました。

この二つの小屋は昔、私が何度もお世話になっていて、また機会があったら訪ねたいと個人的に思っていた場所でした。

尾瀬ヶ原では、とにかくたっぷり時間を取って、景色を楽しみ、写真を撮りたいと思って計画したコースです。

幸いなことに、本当に幸いなことに、3日間天候に恵まれ、快適に楽しく歩くことができました。出かける前に参加者全員に、カメラを持ってくるようにとメールで伝えたのですが……。どこをどう撮っても、そのうちの何枚かは素晴らしい写真が撮れたでしょう。



1日目の夕刻前に山の鼻に着き、小屋に入らずに植物研究見本園の中のベンチで草紅葉に囲まれて、小屋で求めた缶ビールや、担いでいったウイスキーや焼酎、コーヒーなどを飲んで1時間余をのんびりと至福の時を過ごしました。

2日目は、少々風があって地塘に映る“逆さ燧ヶ岳”も“逆さ至仏山”も、きれいな静止画にはなりませんでしたが、まずまず満足できる写真が撮れました。



3日目、ビジターセンターのザック置き場に荷物を置いて、大江湿原へ入って行きました。途中、脇道を行くと、長蔵小屋を作り、尾瀬の自然保護に尽力された、長蔵小屋三代のお墓のあるヤナギランの丘と呼ばれる場所があります。墓前で心の中で手を合わせてきました。



この日は夜半から風が強く吹いて、燧ヶ岳山頂には尾瀬ヶ原の方向からどんどん雲が湧いてきて、我々が見ている間すっかり晴れることはありませんでした。尾瀬沼の水面に白波が立ち砕けるといのは、始めて見る尾瀬沼の表情でした。

初日の鳩待峠から山の鼻に下る道では、尾瀬を離れるたくさんの人たちとすれ違いましたが、尾瀬ヶ原でも見晴十字路から尾瀬沼への道でも、すれ違う人も追い越す人も少なく、いつもマイペースで自分たちの山道、という感じで歩くことができました。

大清水から沼田駅へのバスを途中で降りて、温泉に入り3日間の汗を流し、例によってビールで乾杯して無事の下山と、好天に感謝したことです。